

2026年第2回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○長浜特別

長浜（ながはま）は、滋賀県北東部に位置する市。交通や水運の要衝として発展した。古くは今浜と呼ばれていたが、この地を与えられた羽柴秀吉が織田信長の「長」をとって長浜と改称したという説がある。

○許波多特別

許波多（こはた）は、京都府宇治市の地名「木幡」の別称。許波多神社は、皇位継承をめぐる壬申の乱の時に大海人皇子（後の天武天皇）が戦勝を祈願したといわれている。また、競馬発祥の神社といわれており、古代から祭礼行事として競馬（くらべうま）が行われていた。

○舞鶴ステークス

舞鶴（まいづる）は、京都府北部の市。幕末までは田辺城の城下町として、明治以降は旧日本海軍の軍港として栄えた。海岸は若狭湾国定公園に含まれ、入江と岬が織りなす天然の造形美が雄大に広がる。

<第2日>

○衣笠特別

衣笠（きぬがさ）は、京都市北区の地名。また、京都市の市街地北西にある標高201mの山。宇多天皇が真夏に雪景色が見たいと、衣笠山に絹をかけたという故事から、「きぬかけ山」とも呼ばれる。南麓を走る「きぬかけの路」沿いには金閣寺・龍安寺・仁和寺などがある。

○八坂ステークス

八坂（やさか）は、京都市東山区祇園町の地名。八坂神社の例祭は祇園祭と呼ばれ、7月に行われている。特に宵山、17日の神輿渡御と山鉾巡行、24日の還幸と花傘巡行が名高く、東京の神田祭、大阪の天神祭とともに日本三大祭と称されている。

○シルクロードステークス（GⅢ）

本競走は、1996年に創設された重賞競走。2000年に『高松宮記念』が3月に移設されたことに伴い、本競走の実施時期も従来の4月から現在の時期に変更となった。また、2002年より負担重量が別定重量からハンデキャップへ変更となっている。

シルクロード（Silk Road）は、中央アジアを横断する古代の東西交通路の名称。名は、絹が中国からこの道を通って西方に運ばれたことに由来する。奈良の正倉院には、シルクロードを通じて伝わったとされる中国製やペルシア製の宝物が数多く現存している。

<第3日>

○橿原ステークス

橿原（かしはら）は、奈良県中西部の市。中世には、市の中心部が寺内町として発展した。神武天皇の皇居は、畝傍（うねび）橿原宮と呼ばれ、現在の橿原神宮は、その皇居跡と推定される地に建てられた。

○エルフィンステークス（L）

エルフィン（Elfin）は、「小さい妖精のような」を意味する英語。チュートン民話において、魔力をもった妖精は、森や野に住み、いたずら好きとされている。

○アルデバランステークス

アルデバラン（Aldebaran）は、おうし座の一等星。アラビア語で「後に続くもの」を意味する「アル・ダバラン」に由来する。カペラ・ポルックス・プロキオン・シリウス・リゲルと共に「冬のダイヤモンド」を構成している。

<第4日>

○石清水ステークス

石清水（いわしみず）は、石清水八幡宮の略称。石清水八幡宮は、京都府八幡市にある旧官幣大社。都からみて裏鬼門に位置しており、鬼門に位置する比叡山延暦寺とともに都の守護、国家鎮護の社として崇敬を受けてきた。

○大和ステークス

大和（やまと）は、奈良県全域を占める旧国名。五畿内のひとつで、飛鳥京・藤原京・平城京などの都が置かれ、室町時代初期までは寺社が大きな勢力を誇っていた。1876年に堺県（現在の大阪府堺市）と合併し、1887年に奈良県として分離した。

○きさらぎ賞（GⅢ）

本競走は、1961年に創設された3歳馬の重賞競走。当初は中京競馬場で実施されていたが、1987年から京都競馬場に舞台を移した。また、幾度かの距離変更を経て、1991年に現行の芝1800mとなった。きさらぎ（如月）は、陰暦2月の異称。

<第5日>

○こぶし賞

こぶしは、モクレン科の落葉高木。名は、つぼみが握りこぶしに似ていること、果実に握りこぶし状の凹凸があることから付けられた。花言葉は「友愛」「歓迎」。

○飛鳥ステークス

飛鳥（あすか）は、奈良県高市郡明日香村一帯の地域。6世紀末から7世紀にかけて、この地に天皇の宮が多く所在した。この時代を飛鳥時代と呼び、同地域には、飛鳥寺や高松塚古墳などの史跡がある。

○洛陽ステークス（L）

洛陽（らくよう）は、平安京の左京の称。右京を長安と称するのに対する。名は、後漢など中国の王朝の首都であった洛陽に由来する。

<第6日>

○春日特別

春日（かすが）は、奈良市およびその周辺地域。特に、奈良市春日野町にある春日大社の付近を指す。同社は、1998年に「古都奈良の文化財」のひとつとして世界遺産に登録された。

○北山ステークス

北山（きたやま）は、京都北方の諸山の総称。また、京都市北部の通りの名。室町幕府の3代将軍足利義満が山荘を営んだ京都北山にちなんで、当時の文化を北山文化と呼ぶ。

○農林水産省賞典京都記念（GⅡ）

本競走は、1942年に創設された重賞競走。1950年までは芝3000m～3500m、1952年以降は2000m～2200mで実施されていたが、1969年から2400mに延伸された。また、毎年春・秋の年2回実施されていたが、1984年より年1回となり、1994年には距離が2200m、負担重量がハンデキャップから別定重量へと変更された。